

2016年10月7日

長谷工独自の「ALC金物無溶接工法」を開発 ALC工事での溶接作業が不要で作業効率化と品質安定化を実現

株式会社長谷工コーポレーション（本社：東京都港区、社長：辻 範明）は、マンションの共用廊下やバルコニーに面する外壁にALC^(※1)パネルを採用する際に、溶接工事を必要としないオリジナルの「ALC金物無溶接工法」（特許出願中）を開発しました。

新たに開発した「ALC金物無溶接工法」は、これまで溶接が必要だった取り付け金物の一部を薄肉化することでドリルねじやボルトナットで固定できるようにしました^(※2)。また、金物の重量が薄肉化により約40%軽くなり、労務の省力化が図れます。地震時の変位や耐風圧、耐火など基本性能については、耐火性能試験、耐風圧試験、層間変位試験の各試験を日本建築総合試験所にて実施しました。いずれも、問題がないことを確認しています。また、耐火性能については大臣認定を取得しています。

現在、当社が近畿圏で設計施工する15階建て程度までのマンションに標準採用していますが、首都圏においても順次採用を増やしてまいります。

(※1) ALC・・・Autoclaved Lightweight aerated Concrete（高温高圧蒸気養生された軽量気泡コンクリート）

(※2) 取り付け金物は、通しアンクル（鋼材）、開口補強材（鋼材）、接合金物（鋼材）、ALC固定金物（鋼材）で構成されており、従来は金物同士を溶接で固定していました。

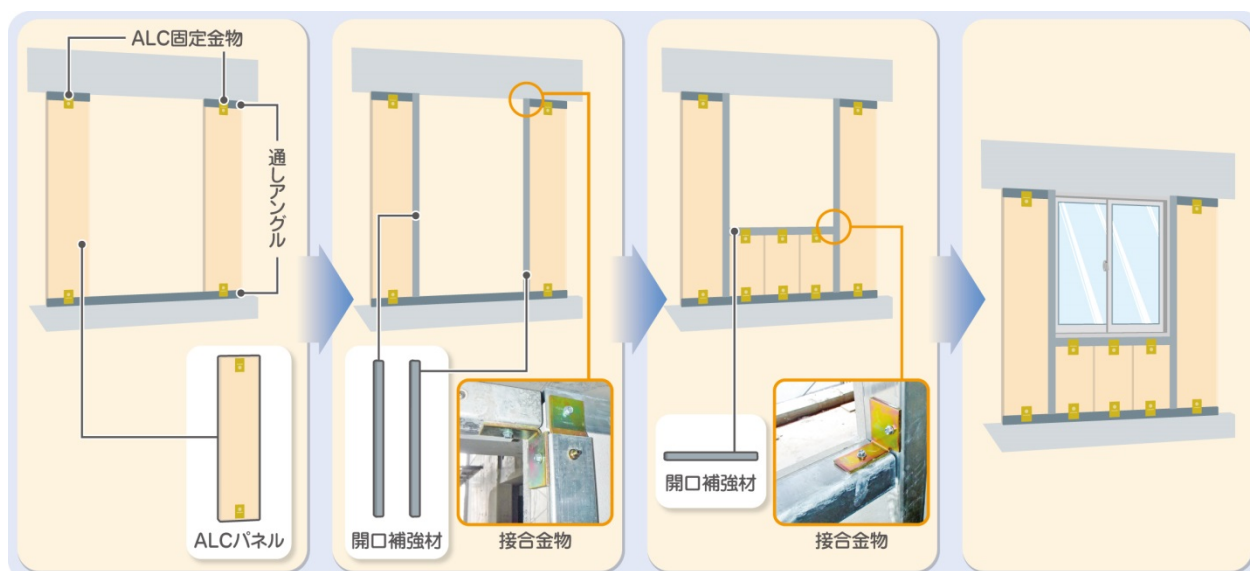
【「ALC金物無溶接工法」による効果】

「ALC金物無溶接工法」を採用することで、次のような効果があります。

1. 無溶接化と金物重量の軽量化により、ALC工事の労務省力化が期待できます。
2. 無溶接化により品質の均一化が図れます。
3. 無溶接化により電気使用量を削減し、環境負荷の低減につながります。



【「ALC金物無溶接工法」の施工手順】



【採用条件】

「ALC金物無溶接工法」の採用条件は、以下のようになります。

- ① ALCパネルの高さ：2,700mm以下（階高2,960mmに対応）
- ② 設計風荷重：2,800Pa以下（15階建て程度に対応）
- ③ 廊下側梁下腰窓サッシ寸法（W）：1,500mm以下

【これまでのALC工事に関する技術開発】

（2009年7月31日発表）

長谷工独自の「ALC乾式壁無溶接工法」を開発
長期優良住宅に適応した高い更新性と可変性を実現

<http://www.haseko.co.jp/hc/information/press/20090731.html>

※「ALC乾式壁無溶接工法」は、ALC工事とサッシ工事の無溶接化を実現し、長期優良住宅に適応した工法です。

（2013年11月14日発表）

マンション開放廊下の「袖壁・垂壁用ALC部材」を開発
型枠工事を省力化し、今後の更なる工業化に布石

http://www.haseko.co.jp/hc/information/press/20131114_4.html